

1 美術科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 中学校（高等学校）の美術科教育の意義

～人間としての生き方や価値観が形成される時期（→生きる力が大きく培われる時期）

中等教育資料 平成 26 年 1 月号 「芸術」が輝く—現代の社会変容と芸術教育の推進— から（別紙参照）

「その創造活動の力は、～世界や他の人々や自己と交わり交渉し、その意味を生成せしめ、またつくり変えていく力の基底を培いながら、その感度や深さ、創造性を高めていく。重要なことに、この「芸術」諸教科の教育が照応する文化要素は、現代社会を構成する不可欠の中核的要素の一つとなっている。子どもたちは、音や形や色やそれに託されたイメージを、深く呼吸しながら現代社会に育ち生きていく。」

※「知識基盤社会（新しい知識や情報・技術が、社会のあらゆる領域において活動の基盤として飛躍的に重要性が増す社会）」の時代の中での、**美術科にしかできない、深く関わり豊かに交わるための教育**

(2) 現行の学習指導要領の中学校美術科の主なポイント

- ◇ 育成する資質・能力と学習内容との関係の明確化（人間形成の一層の深化）
- ◇ 表現及び鑑賞において共通に必要とする資質・能力の〔共通事項〕
- ◇ 作品などに対する思いや考えを説明し合い、批評し合う活動の充実
- ◇ 美術文化についての理解

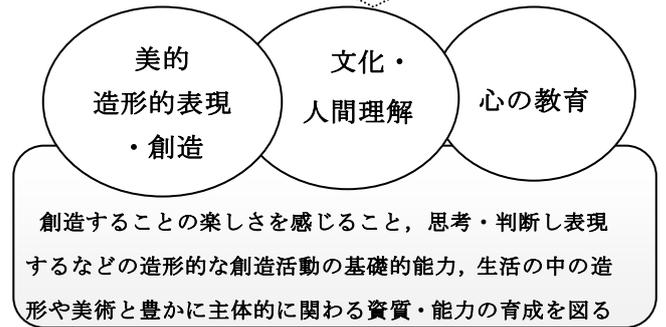
美術科の目標

(3) 改善の具体的事項（学習指導要領解説 P3～ P4）

表現や鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わわせ美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かに働かせて美術の基礎的能力を伸ばし、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを重視して、次のような改善を図る。

※ 感性～ 様々な対象・事象からよさや

美しさなどを感じ取る力。知性と一体化して人間性や創造性の根幹をなすものである。能動的な活動の中で、感覚を働かせて見る・感じるなどによって、感性が高まる。



(ア) 育成する資質と能力を整理し、「A 表現」を発想や構想に関する項目と、表現の技能に関する項目に分けて示し、柔軟な発想力や形・色・材料で表す技能などが関連して働くように内容の改善を図る。また、形や色、材料などから性質や感情、イメージなどを豊かに感じ取る力を育成するため、領域や項目などを通して共通に働く資質や能力を〔共通事項〕として示す。

- ※ 〔共通事項〕 ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
- イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

(イ) 生活や環境の中の造形によさや美しさなどを感じ取る学習や、自分の気持ちや伝えたい内容などを形、色、材料などを生かして他者や社会に表現する学習を一層重視する。その際、身近な環境について、安らぎや自然との共生などの視点から心豊かなデザインをする学習については、鑑賞の視点から充実を図る。

※ 事例紹介～ 包装紙のデザイン（青森）・和菓子やオリジナル飲料のデザイン（秋田・別紙参照）

中学校 美術

(ウ) 鑑賞においては、よさや美しさを味わうようにするとともに、感じ取ったことや考えたことなどを自分の価値意識を持って批評し合うなどして、自分なりの意味や価値をつくりだしていくことができるように指導の充実を図る。

※ 鑑賞は単に知識や定まった価値を学ぶだけの学習でなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくりだす学習である。このような鑑賞の学習を推進していく手立ての一つとして、言語活動の充実を図った。(解説 P15)

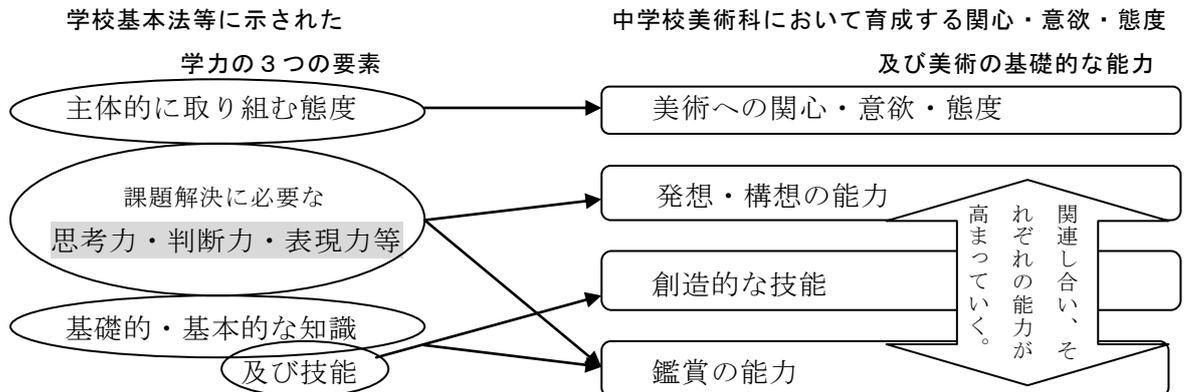
→第1学年 作品などに対する思いや考えを説明し合うなど

第2学年及び第3学年 作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなど

※ 言語は、知的活動(論理や思考)だけでなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。

(中教審(答申)言語活動の充実について から)

※ **美術科の言語活動について**



【共通事項】の視点に基づき、構想や説明をする・価値をつくるなど、言語活動を手立てとして使っていく。

作品に対する生徒の説明文から～

この作品のモデルをしてくれた友達は、日頃とてもおもしろい人です。でも、時折真剣な表情を見せます。僕はそんな彼女の人柄を絵の中に表したいと思いました。 } **主題の創出**

個性のある雰囲気を出すためにメガネに触ったポーズを取ってもらいました。 **主題を基にした表現の構想**

顔の陰影を強調しました。 **創造的な技能の工夫**

制服の対照色を使うことで、存在感を際立たせました。 **【共通事項】を踏まえた構想・技能**

満足のいく作品に仕上げることが出来たので、友達にはとても感謝しています。 **達成感・他とのつながり**

(中等教育資料・10月号表紙予定)

(エ) 我が国の美術についての学習を重視し、美術文化の継承と創造への関心を高める。また、諸外国も含めた美術文化や表現の特質などについての関心や理解、作品の見方を深める鑑賞の指導が一層充実して行われるようにする。

※ 美術文化～ 様々な国や地域における美術や工芸に関する作品、作風、作家、価値観、美意識などの総称。(解説 P33) 創造的な側面と伝統的な側面からの迫り方を工夫する。現代社会で身に付けた価値観などを生かして過去の作品を理解することも大切である。(解説 P47)

※ H17の学習に対する意識調査で、「美術を勉強すれば、日本や諸外国の文化のよさや違いを理解できるようになるか」という質問の回答は、第3学年になった時に肯定的な回答が多くなっている。